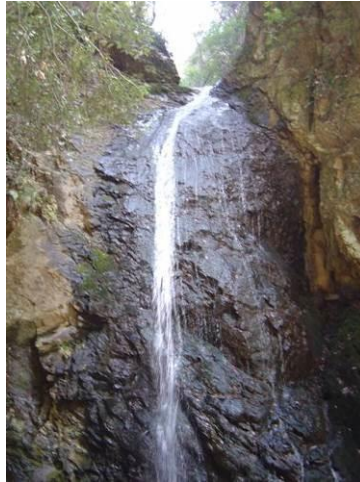


12-1 最明寺滝から石切り山をたどる (距離約 8.0km)



最明寺滝

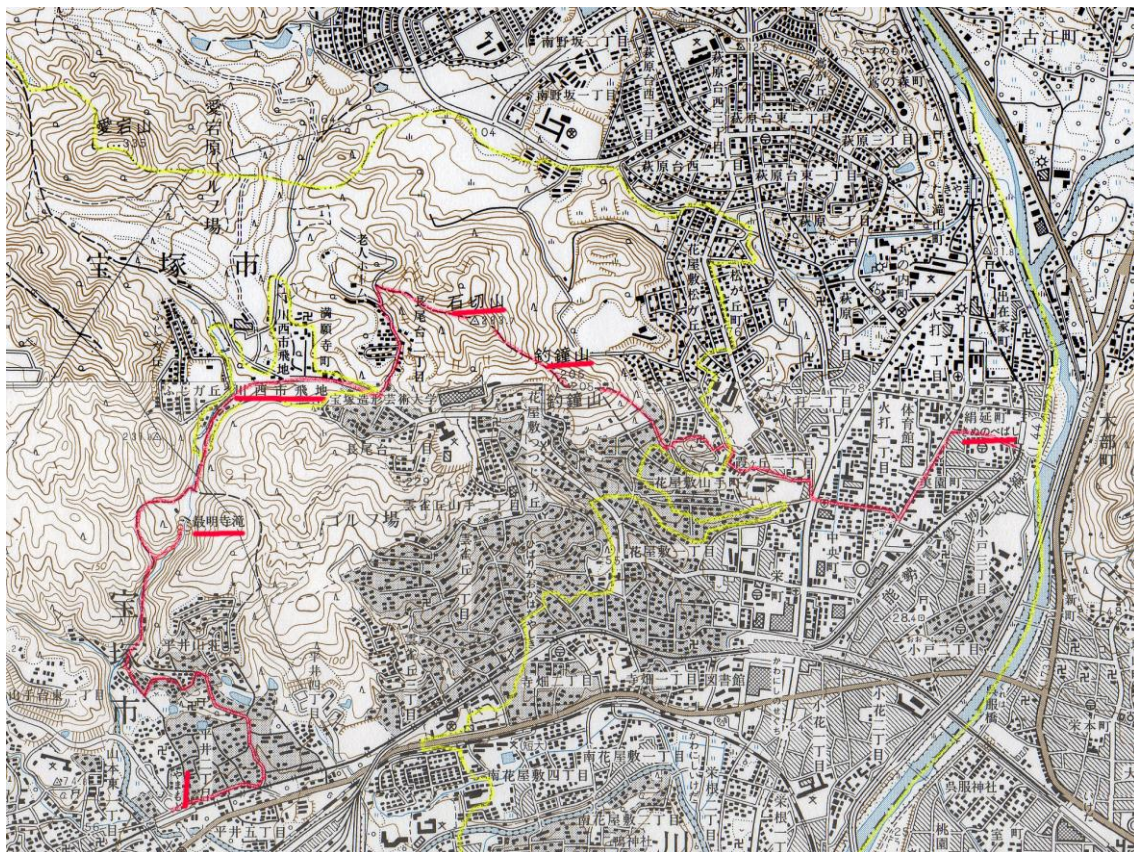
【街歩きの概要】

1/25000 の地形図を手にして、兵庫県宝塚市と川西市の境にある石切り山を目指してハイキングをする。ルートは宝塚市の北方、阪急電鉄宝塚本線の「やまもと駅」から最明寺滝、石切り山、釣鐘山を経て、能勢電鉄妙見線の「きぬのべばし駅」まで、道すがら、駅・滝・飛び地・堰、森林といった地図表現を確かめながら歩く。

【道順】

阪急宝塚線山本駅→阪急宝塚線 平井踏切→平井集落内の道→灌漑用ため池→最明寺滝へ向かう徒歩道→広葉樹の森→木橋 1→大聖不動尊屋門→辰巳橋→最明寺滝→堰→木橋 2→川西市飛地界→満願寺→川西市飛地→石切り山へ→石切り山→釣鐘山→霞ヶ丘住宅地→能勢電鉄絹延橋駅

ルートマップ

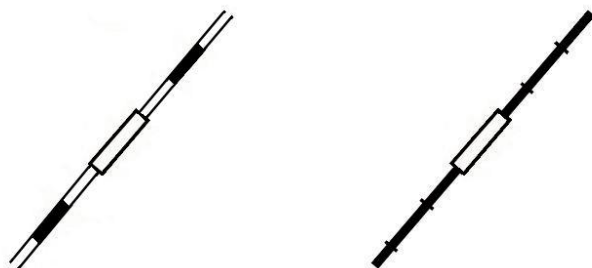


【街歩き解説】

①阪急宝塚線 山本駅

1/25000 地形図「岩根」と「伊丹」を広げて、山本駅から最明寺滝、石切山を目指してスタートする。

下車駅となる阪急電鉄の「やまもと駅」、その近くには「山本東一丁目」という地名が見えるから、駅名を漢字であらわせば「山本駅」となり、同じように「きぬのべばし駅」も「絹延橋駅」である。1/25000 地形図では、旅客駅名はひらがなで、貨物駅名は「隅田川」のように、漢字で表記する決まりになっている。



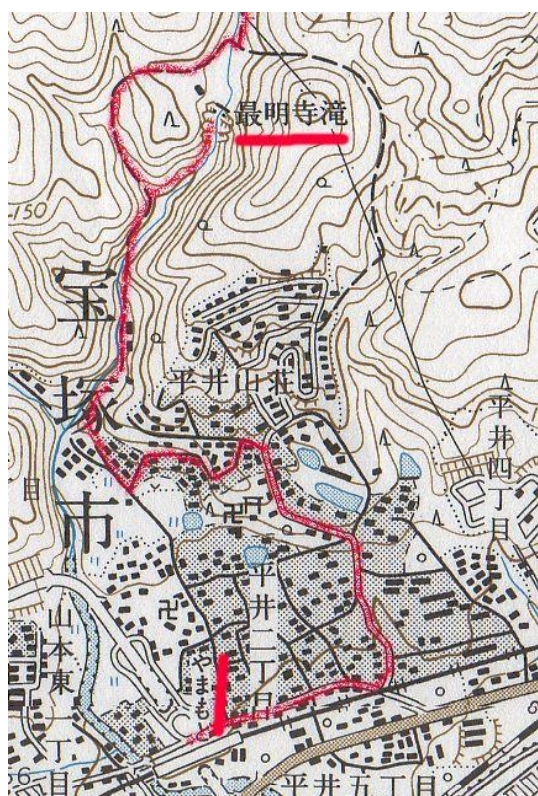
JR 鉄道線と駅・JR 以外の鉄道線と駅

地図豆知識：駅とホーム

長方形の「駅」の記号の実態は、プラットホームを表現している。したがって、プラットホームが一定以上長くなると駅の記号も長くなる。地図中の「やまもと駅」と「きぬのべばし駅」（のホーム）でも長さのちがいがわかる。

「やまもと駅」は、図上で約7mm。縮尺倍すると、175m、最大8両編成ていどの電車が停車できる計算になる。他の駅の記号でも長さのちがいがはっきり読み取れるはずだ。

そして、「やまもと駅」に接続する鉄道記号は、なじみの白と黒の旗竿状の記号ではないから、阪急電鉄と書かれていなくても、「JR以外の鉄道」であることがわかる。旗竿状の記号は、従来国鉄に限って使用していたが、国鉄民営化後はJR線にのみ使用するきまりになっている。国鉄の民営化を機に、第三セクターの鉄道線も他の私有鉄道と同じ「JR以外の鉄道」に入れられた。



地形図 1

初心者は遠回りになっても、わかりやすい道をたどるといいが、
溜池の風景や樹木に囲まれた集落へ寄り道すると
いい風景に出会えるだろう

「宝塚市」の文字が邪魔をして、一部経路が不明だから注意する

②阪急宝塚線 平井踏切へ

山本駅から最明寺滝へ向かう道は多くあるが、迷うことが少ないように、線路の北側に沿って東に延びる1車線の道を平井踏切手前まで進み、そこから北（左）へ折れて坂道を上り、最明寺滝へと向かうことにする。

地図を見る限り、平井の集落を北に抜ける1車線幅の道は一本だけである。この二本線で書かれた1車線幅の道（地図の決まり「図式」では、幅員3m~5.5m）が、地図の上でも、現地でもわかりやすいからだ。

しかし、平井集落の中にある軽車道（幅員1.5m~3m）だからといって、車の通れないことはない。地図上での1車線道路は、道路脇の電柱にさまたげられずに「大型車が容易に通れるか」といった有効幅員で判断されている。もちろん、正確さだけではなく、全体バランスも、ときには加味される。だから、軽車道だからといって、車の通れないことはない。いまどき、自動車が通行できない集落内の道路がそう多くないはずだ。



平井集落内の軽車道と1車線道



2車線の道路・1車線の道路・軽車道・徒歩道

③平井集落内の道

集落内のルートを避ける理由は、ほかにもある。地図上の平井の集落には、全体に網点がかかっている。これは「樹木に囲まれた居住地」といって、敷地内がうっそうとした樹木に囲まれた古くからの住宅地を表現するのだが、最近では庭木などの多い高級住宅地をしめす場合もある。いずれであるかは、道路の発達状況などから判断する。

ここは、前者のかつての農村集落であることを示している。そのことから見通しも悪く、屈曲の多い道が続き、迷いやすいからだ。ただし、街歩きには、こうした集落内を目指した方が、木造家屋や庭木が作る景色と、楽しい出会いが待っていることを知っておくと便利だ。

さて、平井集落がかつて農村集落であったことを証明するものはほかにもある。あたりは、今ではすっかり都市近郊の住宅地風だが、集落内には農地灌漑用の溜池が多数散在しているからだ。



樹木に囲まれた居住地



住宅地内の溜池

さらに、注意深く地図を読むと、集落の北「平井山荘」という地名の手前で、「樹木に囲まれた居住地」が途切れる。そこから北では1車線道路の密度が高くなっていることもあり、「平井山荘」集落が新しい住宅地であることを示している。

⑤最明寺滝へ向かう徒歩道

旧来の「平井1丁目」の集落を抜け、新しい「平井山荘」集落を右に見て1車線道から西へと分岐して軽車道を経て、最明寺滝への徒歩道へと入る。しかし、地図の上で、徒歩道の経路の一部が明らかではない。

「宝塚市」という文字が情報を消しているからだ。注記文字を、等高線だけで情報の少ない場所へ配置するといった、地図の作り手の配慮が足りなかったからだ。

それはそれとして、周囲の情報から類推すれば、1車線道から西へと分岐した後は、坂道を下りつつ、川の東北側へ回り込むように進むことになる。

地図豆知識：樹木に囲まれた居住地

家々が黒の網点で埋められ他記号は、「樹木に囲まれた居住地」というものである。

これは、うっそうとした樹木に囲まれた古くからの住宅地を表現するのだが、最近では庭木などの多い高級住宅地をしめす場合もある。そのいずれであるかは、道路の発達状況などから判断する。

「樹木に囲まれた居住地」という表現は、地図が軍事用であった時代の歴史的遺産のようなものだ。それは、中学校の社会科などで学ぶ富山県砺波市周辺に広がる散居村のような見通しがきかない地域、あるいは内戦の際に軍隊行動に注意が必要な地域として、とくに区分表現されたのがはじまりである。

地形図の始まりが、軍用図がであったことの示す同例としては、軍隊の宿营地あるいは目標物として重要であった寺院や神社が、他の建築物に比べてごく小規模なものまで表示されていることがよく知られている。



「平井山荘」から最明寺滝へ向かう徒歩道



広葉樹林・針葉樹林

⑥ 広葉樹の森から最明寺滝へ

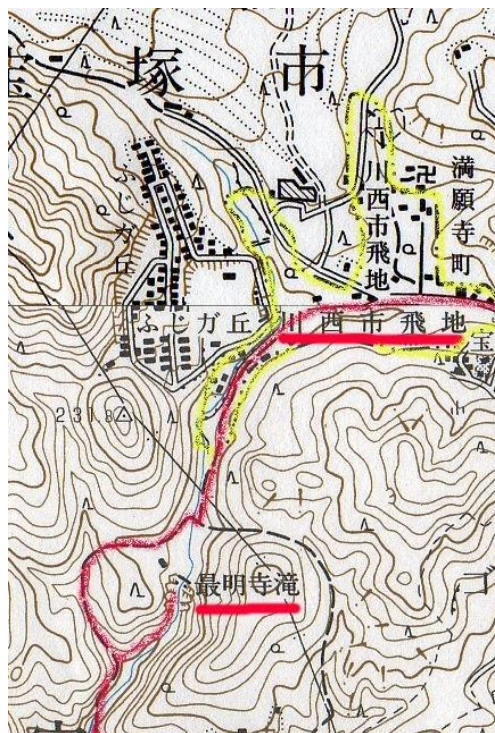
地図（地形図1）を見ると最明寺滝へ向かう徒歩道の東側には広葉樹が、川向こうには針葉樹の記号が多く配置されている。道を進みながらどの程度のものか確認して見る。じっさい、徒歩道の周辺は、おおむね広葉樹の森が広がっているはずだ。

しかし、森林記号の密度の低さから判断してもわかるように、これは概ねであって厳密な、その位置の状態を表現しているものではない。

また、地図の「宝（塚市）」の文字の北で、徒歩道が水流のある谷を渡っているが、ここには橋の記号が無い。地図のきまりでは、一定規模（20m）以下の橋は省略してもいいことになっている。

地図に記号が無くても、こうしたポイントはしっかり確認すると道迷いが少なくなる。じっさい、最明寺滝への主流部だけでなく左右から流れ込む小さな谷を渡る橋も予想される。経路の右手に滝、そして左手から石切山へ向かう分岐部分にも橋（「辰巳橋」）がある。

省略ということでは、辰巳橋を渡る手前には、大聖不動尊屋門がある。これも、居住建物ではなく、規模も小さいため地図には表現されていない。



地形図 2

赤は歩きのルート、黄色は行政界（以下同じ）
送電線を横切る手前、太くなった計曲線を2本またぐところが峠
そして、山岳地などでの道歩きには、送電線がいい目印になる
黄色で囲まれた川西市の周りは、すべて宝塚市

⑦辰巳橋

大聖不動尊の屋門をくぐると、地図には無い辰巳橋があり、道は二つに分かれて、右手は最明寺滝方向へ、左手は石切山方向へ進むものだ。

最明寺滝方向の徒歩道は地形図に表記されていない。これは短小であることでの省略、あるいは調査不足かもしれないが、地図の利用者からすれば不親切である。作り手の配慮不足といわれてもしかたない。

1/25000 縮尺の地図では、自動車が通行可能な道は原則すべて表示するきまりだが、幅員 1.5メートル未満の道（地図の決まりでは「徒歩道」という）は、農林作業や登山・ハイキングなどに使われて交通がひんぱんであり、峠の向こうまで続くといった主要な交通路だけが表示される。また、森林下や崖下では経路が航空写真上に写らない場合もあり、現地の調査が不十分なきには正しく表現できていない例もよくある。

言い訳はともかく、市街地近郊のしかも人里に近く、注記が記載されるくらいの滝だから、シーズンには多くの人を訪れるにちがいない。地図の利用者は、地図に記入がないとしても、滝までつづく道があると予想した方がいい。

逆に、地図に徒歩道が表現されているからといって、むやみに立ち入るのは危険な場合もある。モータリゼーションの時代以降、地図における徒歩道の信頼性は低いのだ。

さて、その地図にはない道を川に沿って 200m ほど進むと、滝の音が聞こえ、水しぶきも見えてくるはずだ。



最明寺滝手前、大聖不動尊の屋門と、その向こうに辰巳橋

地図豆知識：滝

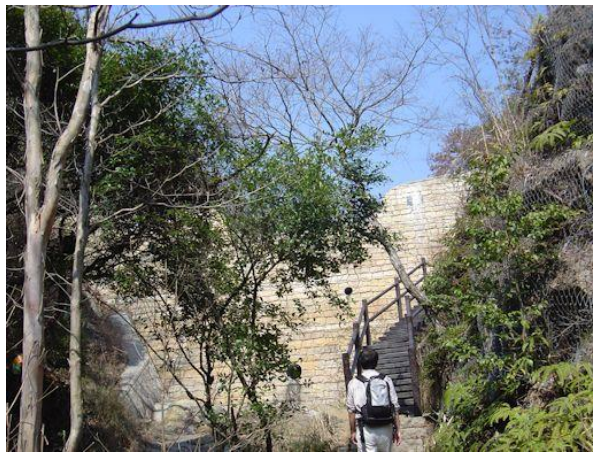
「滝」について、地図の決まりでは高さ 5m 以上の常時水流がある場合に表現する（インターネットの情報では、最明寺滝は高さ 10m とある）。また、滝の幅が正射影（上から見た広がり）で 20m メートル以上あれば、大きな滝としてじっさいの幅におうじて表現する決まりになっているが、地図マニアにもこのことを知る人は少ない。もっとも、「正射影で」というところがくせもので、真上から見た面積が所定の大きさに達しなければならない。日本では、滝の水しぶきをしめず円点が、三重に描かれるような大きな滝には、お目にかからないだろう。

また、規模が小さいだけでなく、多数の滝が近接して存在するときも省略するから、沢登りの者などは注意が必要だ。



滝（小）と滝（大）・堰（小）

滝は下流側にしぶきの点が、堰は上流側が破線になる



見上げるほど高い堰



辰巳橋から北へ向かう徒歩道（木橋）・石切山

⑧川西市飛地界へ

しばし、さわやかな風と滝音の中で休んだら、もと来た道を辰巳橋までもどり、針葉樹の森の道を上る。しばらくすると、これも地形図に表示されていない大きな堰が、立ちはだかるように現れる。これを巻くようにして徒歩道を上り、しばらく進み、当然地図には無い丸太を並べただけの木橋を渡る。堰のことは、経年変化に対応していない結果だと思う。

更に、上り道を進むと峠になり、徒歩道路の先に急に住宅地が広がる。そこは川西市の飛地であることが、地形図の境界記号をなぞると明らかになる。

突然だが、その昔区長をしていた夏目漱石の父が夏目家の家紋が井桁（井戸の形）に菊であることにちなんで、住んでいた町を「喜久井町」と名付けたのが一般化して、地図にも表記されたという逸話が残されている。

地名や行政界は、地図作成者である国土地理院が勝手に決めたり、言い分が異なる者の間に入って判断を下したりはしない。仮に、夏目漱石の父のように区長が勝手につけた地名だとしても、地元自治体提出した資料や関係する市区町村間の主張に矛盾さえなければ、そのまま地図に記入される。

川西市飛地を含めて、地図上に行政界が明示されているから、宝塚市と川西市の間に紛争は起きていないことになる。

地図豆知識：飛地

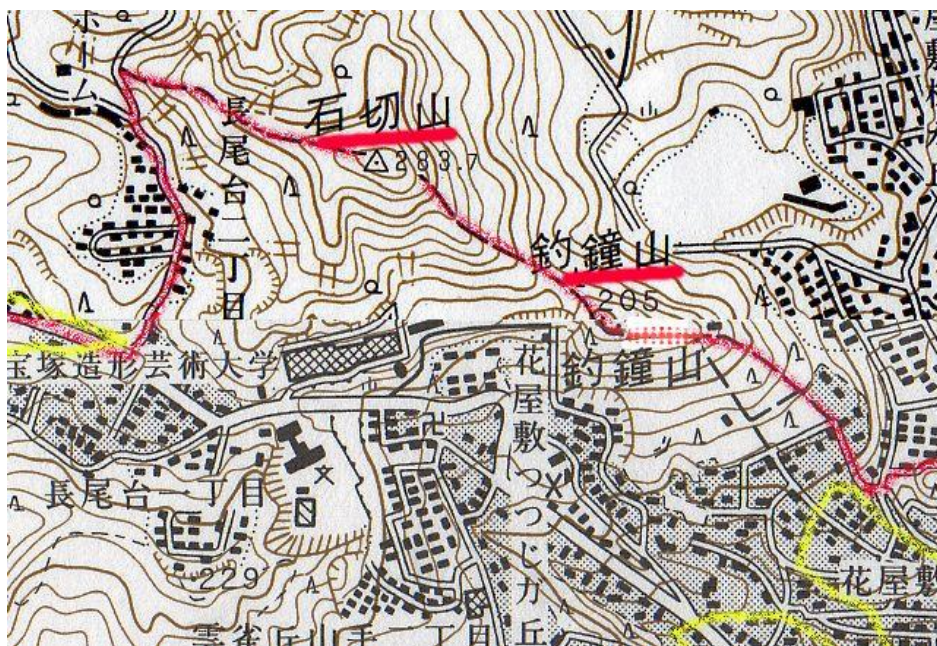
飛地とは、都道府県、市町村、市町村の中の町や大字などの行政区画の一部分が、別の行政区画内に飛び離れて存在する地域のこと。

地図には「川西市飛地」とあって、二点鎖線でしめす行政界の記号を結んでみると、ヒトデ状に小さく囲まれ、周りはすべて宝塚市である。図右の兵庫県と大阪府を分ける川（猪名川）の西側に広がる市街地が川西市である。

川西市の飛地の住民は、とうぜんであるが、買い物、病院通い、そして市役所へ行くにも、一端は宝塚市を通らなければならない。お役所側も、ごみ収集や水道や下水道などのライフライン整備などの場合に同じようになる。飛び地の不便さは、どれほどなのだろうか。

飛び地ができる理由としては、河川の流路変更や封建時代に大名の所領が飛び地状にあったなどのほか、最近では合併によるなどが考えられるが、当地ではどうなのだろうか。「満願寺」という地名とともに寺院の記号が見えるから、飛び地の範囲に一般住民は居住していないのかもしれないし（実際には開発が進んで多くの住民が住んでいる）、所領との関係が予想される。

こうした飛び地は、1/25000 地形図に現れるようなものだけでも、全国に180か所ほどあるという。



地形図 3

一般道から登山道に入る地点では、間違いのないように特に注意深くする
同じように、登山道から一般道に出た時には、しっかりと現在地を確認する

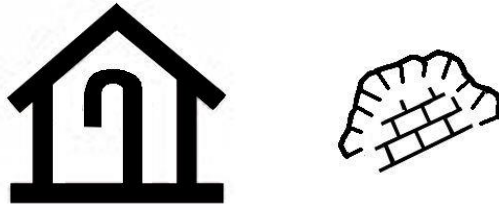
⑨満願寺から石切山へ

飛び地との関連が予想される満願寺を参詣し、「ごみ収集は、どのようになっているのだろうか？」などと、よけいな気をまわしながら2車線（幅員5.5m～13m）の道を東に抜けて、石切山をめざす。

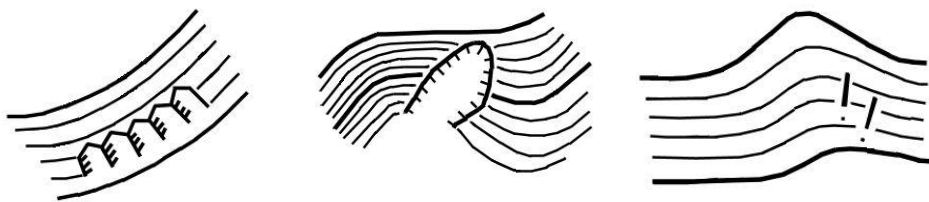
山へ向かう道は、二車線の道から左に折れて長尾台二丁目の集落を北上し、老人ホームを左手に見て二股にわかれた右の山道を進み、さらに右に折れる。

地図には、「老人ホーム」と文字表記がある。しかし、「老人ホーム」については、建物と杖を組み合わせたような地図記号が、公募によって決められたはずである。「老人ホーム」の地図記号を新たに定めたのは、社会の高齢化が地図にも影響及ぼした証拠である。

ところで、地図は地上のようすを縮小して表現するから、スペースの関係もあって多くの建物名称や使用区分は単純化された記号で表現される。だが、地図記号があるからといって、すべてを記号で表現するとは限らない。スペースさえあれば、文字表記も利用する。同例では、工場も地図記号が決められている、規模の大きさやスペースが十分あれば文字表記される。逆に、自治体の清掃センターなどは記号が決められていないから、規模が小さければ省略され、大きければ文字で表記される。



老人ホーム・採石地



岩がけ・土がけ・雨裂

⑩石切山から釣鐘山へ

老人ホームの先から徒歩道に入って、石切山へと上る。「石切山」、名前からして過去には石を切り出していたように思われるが、周辺に石切場を証拠づける「岩がけ」の記号は見当たらない。それとは別に、等高線の中にドッキリマークのような「雨裂」とよぶ、雨の流れによって斜面にできる崩れ地が多く見える。

過去に石を切り出していたとするのは、まったくの推測であり、山名称のいわれについて、私は知らない。釣鐘山は、文字どおり山頂が釣鐘状になっていることからだと思われる。

前者の山頂には、三角点「長尾山」があること、そして読図からも予測できるように、おおむね展望が開けている。後者釣鐘山の現地山頂には、宝塚市の基準点があって南東への展望が開けている。そして、近くでは 1/25,000 地形図には表現できないくらい小さな池を発見できるだろう。



水平位置の基準点：三角点 高さの基準点：水準点

地図豆知識：三角点の名称

地図にある△の印は、三角点をしめす。もし、三角点の詳細な情報を知りたいときには
国土地理院ホームページにある「基準点成果閲覧」から確認するとよい。

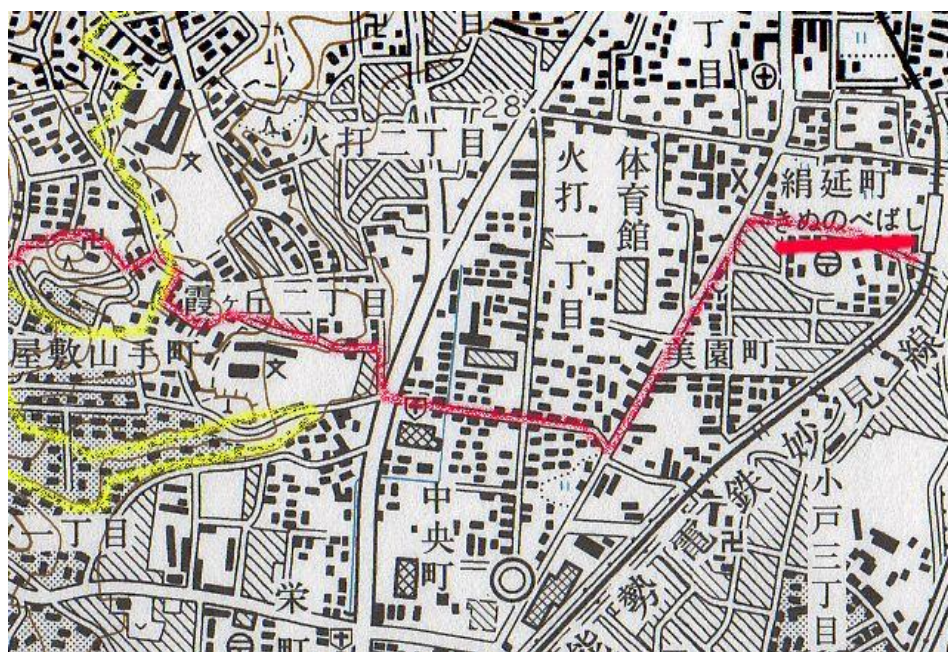
それによると、三角点の等級は三等で、名称は「石切山」ではなく「長尾山」である。
三角点までの案内図（「点の記」とよぶ）には、明治36年に最初の測量が、最近では1995
（平成7）年にも観測がおこなわれ、そのとき周囲は松や雑木に囲まれていて、老人ホーム
からは徒歩で10分かかると書いてある。昔の「点の記」には、後続の作業に必要な、作業
員や水の確保についての情報も記載されていたが今は無い。

このように山の名称と三角点の名称が異なる例は多くある。当初の三角測量は地図作成
を目的とした。すなわち、詳細な地図情報がない状態で測量を開始したので、山名を現地
で聞き取り調査する。そこでの、聞きとりのまちがいが原因のひとつ、さらに、適当なよ
び名や地名がないときには、付近の状況におうじて「見晴山」や「城山」といったように、
三角点の名称を決める権限が、測量者にあったことがもう一つの原因である。

そして、三角点がある山頂からのながめの可能性のことであるが、三等三角点がある石
切山からの展望は、少なくとも三角点を設置した明治のころには、4kmから5km先にある隣
接した三等三角点までの見通しがあった。

さらに、地図の等高線を読めば「石切山」山頂からの展望をさえぎるような山がなく、
とくに南側は大きく開けているのが明らかだから、樹林が深くなく、天候さえよければこ
こからの展望は保証できる。

樹林と視界のことだが、三角点設置後の測量の際には、じゃまになる木々の枝があれば
切ったはずだから、ときおり測量が行われていれば、少なくとも隣接する三角点方向の細
い視界（「視通」と呼ぶ）だけは開いているはずだ。ところが、最近ではGPS（GNSS）測
量が主流になって、その際にはとなり合う三角点が見えなくても、上空の人工衛星が見える
ことで必要十分であるから、隣接する三角点方向の視界さえも期待できないことがある。



地形図 4

複雑な市街地ほど、常に地図を眺めて進むのでは無く
地図を読んで「突き当たったら右へ曲がる」などと
次の目標を明確にして進むのがいい

⑪霞ヶ丘住宅地から能勢電鉄絹延橋駅

双子のようになった石切山と釣鐘山からの素晴らしいながめも楽しんだら、山を下って「霞ヶ丘」、「花屋敷山手町」の住宅地内を経て能勢電鉄絹延橋駅へと向かう。

辺りには、「樹木に囲まれた居住地」の記号が見えるが、ここは、山本駅そばの平井集落とは異なり、庭木の多くある新興（高級）住宅地だろう。そのことは、自動車交通に対応した幅員と形状の道路網、そして周囲に耕作地が全くないなどのことから推測できる。

さて、高さにして100mも下らないうちに、今風な町名「花屋敷山手町」の集落がはじまり、その向こうの小山の陰には、お寺の屋根が見えるはずである。その小山を回るようにして、左右に折れて、二つの学校を見ながら下って四車線の道に出る。

道すがら見えた二つの学校、地図の上では小学校と中学校の区別はつかない。地図記号では、小学校と中学校に区分されていないからだ。

一般的に元の地図記号を、丸で囲むと上級の記号になる。小・中学校の「文」の記号を丸で囲むと高等学校、警棒二本を交叉させた交番の記号を丸で囲むと警察署というように。



警察署と交番・小中学校と高等学校

四車線の道を横切り、左右に二回ほど曲がると「絹延橋駅」に到着する。地図の道筋には、病院、消防署、交番、そして郵便局があるが、町中を歩いていときに各建物は見つけられるだろうか。郵便局よりコンビニの方が目印になりやすいこのごろだが、民間の施設は市役所などの公共施設に比べ、改廃が激しいから、役所の記号が優遇されている官尊民卑の地図も、その点で利用者にはいい面もある。

住宅街を抜けて絹延橋駅へゴールする。

国土地理院の地形図、それも紙の地図と聞くと、時代に対応していない、変化のない代表ではないかと思われがちだが、社会の微妙な変化にも対処しているようすが、このハイキングで感じられたらだろうか。地図記号に関する少々の事前知識を得てから、地図を持参しての楽しい野山歩きをおすすめする。